YAMANOUCHI, YOSHIKO: On Deviated Food Habit in Infancy
Report 2. Children's Attitude to Carrot

小児性食性異常について

第2報 小児の人参に対する態度

広島女子短期大学

山内 美子

著者は『いわゆる偏食の実態調査及び対策の指針探求』①中で「人参を嫌う理由」「人参を嫌う年令の推移」を発表したが、本報では人参のみの単材料で料理をした物8種類を普通児と盲児の男女に試食させて、男女間、家庭の職業間、両者間に差異があるか否かをみると同時に、嫌食に対する一般対策をつかもうと試みた。

調査対象並びに調査方法

昭和31年5～7月に広島市立宇品小学校6年生男女30名、広島県立盲学校小学部5・6年生男女27名に昼食直前に試食させた(両者間の平均年令は大体同じ)。

人参は大(短冊切り…横2cm, 縦4cm, 厚さ0.5cm), 小(みじん切り)に切った。

人参の料理は姿のわかる物…辛煮(亀甲万醬油11%), 甘煮(砂糖5%, 塩1.2%), 酢の物(3杯酢), カレー煮(カレー粉1.3%, 塩1.2%), 葛煮(葛2%, 醬油6%, 砂糖2%)。姿のわからない物…天ぶら, 白和え, 蒸しパン(小切りの人参を芋餡へ混じた物, 小切りの人参をパンの表面の中央へ箆めこんだ物)。

試食の前日に盲児と小茶話会を開いて疎通を計ったが、普通児はこの労をとらなかつた。理由は盲児が疑惑を懐いて協力してくれないと困ると思つたからである。

試食の直前に料理法の説明を両者に簡単に

した。食前と食後の感想を普通児には調査用紙へ記入させ、盲児は個人聴取した。

学内の教職員、副手、事務職員の男女15名づつに人参の切り方について大小何れがよいか、個人面接をした。

調査成績

(第1～5図のNo.4まで90%の信頼度, 第5図のNo.5は60%の信頼度である)。

(I) 人参料理を全体的(短冊切りとみじん切り, 及び男女の平均にみると第1図No.1～5のようになる。No.1図の「好む」物は天ぶらで殆どの小児に好まれている。両児間には有意の差は認め難い。白和えは普通児が特に好んでいる。No.2図の「嫌う」のは普通児が多い。料理法はカレー煮, 辛煮, 甘煮, 白和えである。No.3図の「普通」は盲児が多く, 白和え, 辛煮, カレー煮, 甘煮を好悪感なく食べている。No.4図は「好む」と「普通」を合計したのであるが, 盲児が, カレー煮, 辛煮, 甘煮, 白和えをよく食べることになる。

尚, 好(好む+普通)悪の差をNo.5図で見ると, 盲児は天ぶら, カレー煮, 白和え, 辛煮, 甘煮を文句なしに食べるに反し, 普通児は, 天ぶら, 白和え以外は大体嫌つている傾向であるが, カレー煮, 酢の物は特に嫌悪している。普通児と盲児間では盲児がカレー煮, 白和え, 辛煮, 甘煮をよく食べるようである。

(II) 切り方について(第2図, No.1～2)

A. 好まれる切り方 (No.1 図)

普通男児のみ過半数が美味しく食すようである。その男児の傾向は 大5:小1 である。

1) 男女差…普通児では男児がカレー煮、辛煮の大切り、葛煮の大切り、小切りを好んでいる。甘煮は60%の信頼度でも差は認め難い。盲児は60%の信頼度でも差は認め難い。

2) 普通児と盲児間…男児間では普通児が小切りの白和え、葛煮を好み、他は60%の信頼度でも差は認め難い。女児間では60%の信頼度でも差は認め難い。

3) 食前の感じと味の好悪は同傾向である。

B. 嫌悪される切り方 (No.2 図)

普通女児のみ過半数が嫌っている。その女児の傾向は 大4:小1 である。

1) 男女差…普通児では女児が辛煮、葛煮、カレー煮の大小を問わず嫌っている。天ぶらの大切り、甘煮の小切りは60%の信頼度でも差は認め難い。盲児は60%の信頼度でも差は認め難い。

2) 普通児と盲児間の差…男児間では差は認め難い。女児間では普通児が辛煮、カレー煮の大切りを嫌い、酢の物、甘煮の小切りは60%の信頼度でも差は認め難い。

3) 食前の感じと味の嫌悪は同傾向である。

C. 嫌悪感なく食べる切り方 (No.3 図)

No.1~2 図で有意の差の認められた料理の「好き」と「普通」を加えてみると、各料理とも普通女児以外は60%の信頼度でも差は認め難い程、嫌悪感なく食べる。

(Ⅲ) 切り方の大小による好悪差 (第3図, No.1~2)**A. 大切りについての好悪差 (No.1 図)**

天ぶらは4者に好まれている。その他の料理は普通女子に嫌われ、他の3者の好悪差は認め難い。7種の料理の平均値は普通男児が好み、普通女児が嫌っている。盲男女は60%の信頼度でも差は認め難い。

B. 小切りについての好悪差 (No.2 図)

天ぶらは普通男児、盲男女が特に好むに反

し、普通女児は60%の信頼度で差が認められる。更に同女児は白和え、甘煮も好んでいる。他の3者間では60%の信頼度で、普通男児が葛煮、白和えを好み、盲男児は葛煮を嫌っている。平均は大切りと同調である。

(Ⅳ) 食前の感じ (第4図)

天ぶらは4者が好感を懐いている。辛煮、吉野煮、甘煮、カレー煮、酢の物は普通女児が悪感情を懐いている。この5種を第2図 No.2 を参照すれば何れも高率を示している。

(Ⅴ) 職業別についての嫌悪状態 (第5図, No.1~4)

精神労働と肉体労働に大別した。精神労働は公務員、教員、事務員、商業の中菓子販売店をし、肉体労働は失業対策、工、農、商業の中自転車修理、父死亡母無職をした。少人数のため男女に分けなかつた。精神労働者は普通児13人で43.3%,盲児8人で29.6%,肉体労働者は普通児17人で56.7%,盲児19人で70.4%となる。盲児間には有意の差が認められる。

1) 全体的にみると、精神労働者の小児が嫌う傾向である。特に大切り (No.1~2) の辛煮を両者が、小切り (No.3~4) は特に普通児が辛煮を、盲児は白和えを嫌っている。

2) 料理別 (No.5) にみるため第1図 No.1~4 から嫌悪している物を取り出してみた。

甘煮…精神労働者の普通児が大切りを嫌う。

辛煮…精神労働者の普通児は大小の切り方を、同職の盲児は大切りを嫌う。

カレー煮…精神労働者の普通児が嫌う傾向。白和え…4者とも50%以下のため論を要せず。

考 案

1) 人参は多くの小児が嫌っているが、調味料や調味法、切り方を変えれば殆どの小児が食べる事が判つた。1報で「料理法を変えれば食べられるかどうか判らない」13.9%,「絶対に食べない」が17.4%いたが、本実験によ

り、嫌食品は天ぷら、和え物（サラダ、味噌和え、胡麻和え、白和え等）にして、その物を直接舌に触れさせない事と、匂を消し味を変えるために小さく切つて調味料を充分滲透させる事である。又間食として蒸しばんの中に微塵切り、又は裏ごしにして入れると食べ易くなる。

2) 普通男児が大切りを、同女児が小切りを好む傾向について推察した。小学6年生といえど心身共に女児が男児を凌駕する時期である。そこで著者は成人男女に「人参はどんなに切つたのがよいか」と個人面接をして纏めると第1表の如く、成人の多くは大切りを好*

肉体労働家庭が多いからで人参の色、形態がみえないからではないと思う。家庭の職業、匂、味が影響を及ぼすものと思われる。

4) 肉体労働者の小児が辛煮を好むのは親の嗜好に影響されていると思われる。

5) 食品に対する心理的効果は、見た感じが過去に経験した舌ざわり、歯ごたえ、風味等に条件反射的に作用するものと思われる。故に配色、形態、季節感、盛付及食器にも意を配れば眼を楽しませるのみでなく、不当な緊張、抵抗がなくなるから、愉快地食事が出来ると同時に各種の栄養素も攝取されるので、心身の保健、衛生上好ましいと思われる。

第1表 成人の人参の切り方に対する態度（信頼度90%）

理 由		男 子		女 子		計	
大切 りが よい	小切りは人参その物の味がわからない	9人	60.0%	8人	53.4%	17人	56.8%
	小さく切るのは面倒なので大切りにして煮込む	—	—	2	13.2	2	6.7
	小さいのは舌ざわりが悪い	1	6.7	—	—	1	3.3
	一口に入る位の大きさ、それより大きくても小さくてもいけない	1	6.7	—	—	1	3.3
	小さいのは歯ごたえがない	1	6.7	—	—	1	3.3
	小さいのを食べたことがないからわからない	1	6.7	—	—	1	3.3
	小さいのは盛り付けが難しい	—	—	1	6.7	1	3.3
計		13	86.8	11	73.3	24	80.0
小切 りが よい	小さいのは味がよくしみてよい	2	13.2	3	20.0	5	16.7
	小さいのは味がよくしみるため子供がよく食べるので親も喜んで食べる	—	—	1	6.7	1	3.3
	計	2	13.2	4	26.7	6	20.0
合 計		15	100.0	15	100.0	30	100.0

*んでいる。これに則れば男児の嗜好が女児より早く成人に似る傾向がある。即ち男児の方が生活場面に対する適応性が早期に表われるようである。普通児と盲児とでは盲児の方が早いようである。又女児の天ぷらより考察されることは「美味」と感じた物は大切りを好むともいえるのではないだろうか。

3) 肉体労働者の小児が大切りを好むのは生活場面に適応せざるを得なくなるのではないだろうか。又盲児が各料理をよく食べるのは

要 約

普通児と盲児に大小に切つた人参の単材料料理各種を試食させて嫌食に対する対策を具体的に探究した。①両者の男女が高率で好む物は天ぷらで、嫌う物は認め難い。②盲女児は文句なく食べる。同男児は葛煮を特に嫌う。普通男児は一般に好感的に食べる。同女児は天ぷら、白和え以外は嫌う。③切り方は普通男児は大5：小1で好み、同女児は大4：小1で嫌う。盲男女児は拘泥しない。④食前後

感は 4 者とも同傾向を示す。⑤ 職業別にみると精神労働者の小児が肉体労働者の小児より嫌う傾向が大である。⑥ 成人男女が大切りを好むことから推察すると、普通女児は普通男児や盲男女児よりも、又精神労働者の小児は肉体労働者の小児よりも生活場面に対する適応性が遅いように思われる。⑦ 食前感は条件反射的に、嗜好的価値を左右する重要な因子と

なるから、配色、季節感、形態、盛付及び食器等には配慮することが肝要と思われる。

擲筆にのぞみ、東京大学名誉教授福田邦三博士の御指導と御校閲を深謝すると共に、調査の手伝いをしてくれた広島女子短大生島淑子、結城当子に敬意を表する。

引 用 文 献

- ① 山内美子：民族衛生，21 卷 3，4 号，

No. 1 好む状態 (+は90%の有意の差を示す)

No. 2 嫌う状態

第1図 普通児と盲児の好悪

(短冊切りとみちん切り及び男女の平均)

No. 3 普通の状態

No. 4 嫌わずに食べる状態

No. 5 好む好悪差

第1図

実線 普通児
太線 嫌う

破線 盲児, 細線 好む
「好む」と「普通」の平均

第 2 図

No. 1 好まれる切り方 (信頼度 90%)

No. 2 嫌われる切り方

第 2 図

No. 3 好悪感なく食べる切り方
(「好む」と「普通」の平均)

第 3 図

No. 1 短冊切りについての好悪差 (信頼度 90%)

第 3 図

No. 2 みちん切りについての好悪差

第4図 食べる前の感じ (信頼度 90%)

第5図 職業別について（嫌悪するもの）
No. 1 短冊切り（普通児）（信頼度 90%）

No. 2 短冊切り（盲児）

No. 3 みちん切り（普通児）

No. 4 みちん切り（盲児）

No. 5 各料理の職業差（嫌）
（+は60%の信頼度を示す）

ON DEVIATED FOOD HABIT IN INFANCY

Report 2. Children's Attitude to Carrot.

By

Y. YAMANOUCHI (Miss)

Thirty children of normal vision, male and female, from the 6th grade and 27 blind children from the 5th and 6th grades were examined, immediately prior to lunch, with carrot dishes of different cutting, cooking and dressing.

Although carrot is disliked by most children, the present study showed that they take some kinds of carrot dishes quite willingly. For instance, tempura is liked by most children.

(From the Hiroshima Prefectural Junior College)

POSTURAL BLOOD PRESSURE REFLEX OF PULMONARY
TUBERCULOSIS PATIENTS

By

M. SUGANO, S. OGIHARA and T. YANO

The postural blood pressure reflex was examined on fifty patients of pulmonary tuberculosis, 32 males and 18 females, 21 to 57 years of age, now being taken care of in a sanatorium. In the present study, mainly the fluctuations of the maximum blood pressure points were analyzed.

In summary, it was found that the brachial blood pressure declined in 22 patients (44%) after the posture change from sitting to lying, and in case of posture change from lying to sitting, 33 patients (66%) showed insufficient restoration of the blood pressure. In view of these facts, it is supposed that the regulatory ability of the blood pressure in pulmonary tuberculosis patients is insufficient, compared with that of healthy subjects. The fluctuation and restoration curves of the blood pressure, to some degree, seems to be determined by age, and generally speaking, the older the patients are, the more likely they are to show an abnormal fluctuation of the blood pressure. the

From the Department of Public Health, School of Medicine, Gumma University, Maebashi.